

第 6 回天神川河川整備懇談会 議事要旨

令和元年 12 月 19 日 10 : 00 ~ 12 : 00

倉吉河川国道事務所 1 階 会議室

1. 天神川水系河川整備計画【国管理区間】事業の進捗状況について

○ホームページでの公表資料について

委員：ホームページで公開される資料はどれか。

事務局：資料-4 全てである。

委員：一般の方の関心は低いのではないかと。ただ、最近は防災意識が高まっているため、広報の仕方によっては見ていただけるかもしれない。

事務局：住民の防災意識の向上として各地区で説明会を開催しており、進捗状況についても個別に説明する方法もあると考えている。

委員：市民は自分の所は大丈夫かということに関心がある。流下能力図に現在どこまで能力を向上できたかということが見えるような提示も考えて欲しい。

事務局：どこの整備が完了したのかということについて、流下能力図に着色する等、工夫させていただく。

○点検結果のまとめ方等について

委員：前回点検以降、計画がどのように進んだのかということを一覧表で示されてはどうか。また、公共事業の予算が厳しい中、必要な予算確保ができているのか。地域の要望を受けてどう対応したのかについて説明が欲しい。最近の想定を超えるような被害や異常気象等を考えたとき、現計画で大丈夫なのか、計画の見直しや再点検に関する情報の提供をお願いしたい。洪水というのは水が溢れて被害が出ることであると思うが、その定義で良いか。

事務局：整備計画の点検については、平面図、流下能力図、写真をセットにして整理させていただく。地域の要望については、どのような要望がありどう対応したかについて整理する。計画の見直しについては、温暖化を考慮した整備メニュー、整備目標流量のかさ上げという指示が出れば、全面的な計画検討も考えられる。河川管理者がいう洪水は、指定水位を超えたものを洪水と呼んでいる。

○雨量、川へのアクセスについて

委員：戦後 4 番目の洪水（平成 30 年 9 月洪水）について、計画雨量に対する雨量も提示してはどうか。

委員：一般の住民は雨量が分からないと思うので、防災教育や広報時に具体的なもの

を示していただけると良いのでは。川の整備は意識しないと分かりにくいので、工事によって災害を防ぐことができたことを示していただけると、国土交通省の事業への理解が深まるのではと思う。川に親しむという観点から川に降りる階段を付けて欲しい。

事務局：天神川は治水上の施設であるが、地域活性化の資源の 1 つでもある。良いものを作って親しんでいただくことが重要な資源になる。地域と連携して魅力ある施設にしていきたい。

○河口閉塞対策について

委員：河口閉塞対策の頻度や実施のタイミングはどうか。基本方針では河口砂州による影響はゼロとして考えるという記述があった。本当か。

事務局：基本方針では河口砂州はフラッシュするため、災害リスクは少ないと考えている。維持管理面では、河口砂州が発達すると天神川の水位が上昇し、河口付近の樋門地点の内水リスクが発生するため、人為的に開削している。

○広報について

委員：住民の防災意識が高まっている。地区の公民館単位で毎年出前授業を実施することを広報されてはどうか。昨年の伊勢湾台風パネル展も好評であった。

委員：国土交通省が実施するハード面での取り組みと自治体のソフト面での取り組みの両方が必要であり、地域への広報では両方セットで実施していただけると安心度が高まる。

○排水機場について

委員：洪水時、稼働中の排水機場が停電になり排水できなくなることが往々にして起こる。そういうことがないように事前点検を十分にお願したい。

○全般について

委員：雨に関する意見について、雨が何ミリ降っているかというイメージの絵があったように思うので、活用されてはどうか。

委員：雨の単位はミリなので、一般には実感が無い。コップ 1 杯の水位でも流域全体に広がれば相当量になるというような実演を学習会で実施してはどうか。

委員：一般の人に対するプレゼンテーションが必要である。グラフや表を作ることも考えて欲しい。河川事業の国家予算は住民の意識が無くなれば消えてしまう。住民が無関心にならないようにプレゼンテーションの方法を工夫してほしい。

事務局：ホームページにアップする際には、分かりやすい資料を最初に添付し、参考資料として今回の資料を付けるように工夫したい。

以上